



平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業採択  
文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」  
学都・岡大発 女性研究者が育つ進化フラン

### 岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

# Newsletter

**特集** 岡山大学ウーマン・テニュア・トラック (WTT) 教員制度

## 第2回男女共同参画に関する管理職セミナー

6月15日、「第2回男女共同参画に関する管理職セミナー」を実施しました。セミナーでは、「九州大学における男女共同参画推進の取組み」をテーマに、九州大学の男女共同参画担当理事・副学長であり、女性研究者キャリア開発センター長でもある倉地幸徳氏に講演をお願いしました。当日は、61名の管理職の教員・職員が出席し、九州大学における男女共同参画の現状および推進のための取組みに関する講演に熱心に耳を傾けていただきました。時間を大幅に超過して活発な質疑応答がなされ、本学におけるこの問題への関心の深さを物語っていました。主な講演内容は次の通りです。

- 学内保育施設の設置
- 教育及び学生の研究活動への支援
- 大学改革推進経費に関するインセンティブ
- 優秀な若手人材の定着・雇用促進に関する取組
- 女性研究者の研究助成制度
- ポイント制による部局人員管理方式を活用した女性枠ポストの設定による女性教員増を目指す取組み

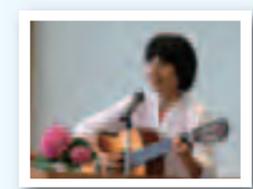
この管理職セミナーは、昨年に引き続き、本学の教育系および事務系の管理職員の皆様を対象に行われたものです。



▲ 倉地 幸徳氏  
九州大学理事（副学長・国際・男女共同参画担当）



**信** 平成23年度第1回交流サロン  
信頼を築くコミュニケーション術  
～気持ちを聴く・気持ちを話す～



市場 恵子氏  
(心理専門相談員・  
広島大学等非常勤講師)

6月22日に「信頼を築くコミュニケーション術～気持ちを聴く・気持ちを話す」と題し、平成23年度第1回交流サロンを開催しました。今回は広島大学等で非常勤講師を務めるかわら、岡山市男女共同参画推進センター「さんかく岡山」等で心理専門相談員としてご活躍中の市場恵子先生をお招きして講演会並びにワークショップを開催しました。

ワークショップでは職場や家庭における様々な人間関係において必要とされるコミュニケーションについて学び、参加者同士で実践練習を行いました。初対面の相手との会話は、ともすると肩に力が入りがちですが、先生の歌や手話を交えての進行で、終始和やかな雰囲気漂うサロンとなりました。



ワークショップの様子

**テ** 第3回メンタリングに関する勉強会  
テニュア・トラック教員が  
メンタリングについて意見を交換

男女共同参画室では、本学における本格的なメンター制度の整備に向けて、平成22年12月より継続してメンタリングに関する勉強会を実施しています。

5月9日および12日に行われた「第3回メンタリングに関する勉強会」では、ウーマン・テニュア・トラック制度および異分野融合先端研究コアのテニュア・トラック教員14名が、メンタリングについて意見を交換しました。メンターとの関係を築く上での悩みや、メンターへの希望等に加えて、本学におけるテニュア・トラックを始めとする教員採用のあり方等について、率直な意見が交わされました。

メンタリングに関する勉強会の成果は桃太郎フォーラムで発表する予定です。

▶ **メンタリング**とはギリシャ神話に登場する人名の「メンター (Mentor)」を語源とし、仕事の仕方や取り組み方、キャリアについて、より多くの経験と知識を持つ先輩 (メンター) が後輩 (メンティー) に指導・助言を行い支援することを指します。

## 女性サポート相談室だより

### 第6回キャリアカフェ

6月29日(水) 医学部記念会館にて、鹿田地区の女性教職員を対象にしたキャリアカフェを開催しました。今回もお昼休みの時間を使い、ランチを食べながら楽しくおしゃべりをしました。参加して下さった方々は、1歳児から高校生まで幅広い年代の子どもさんを育てるママさんたちだったので、お互いに子育ての大変さを共有することができました。また、周辺保育園や幼稚園についての話題にも花が咲き、参加者から「とても参考になる情報もらった」と感想をいただきました。

昨年から始めたキャリアカフェも6回目となり、鹿田地区・津島地区それぞれに働くママ友の輪が広がっているように感じています。今後も、こうした活動を継続していきたいと思っていますので、興味のある方は是非ご参加ください！

### 津島地区相談日変更のお知らせ

7月より、津島地区の相談日をこれまでの水曜・金曜から、火曜・金曜日に変更いたしました。相談時間は同じ10時から16時です。皆さまにはご迷惑をおかけしますが、どうぞご理解の程宜しくお願いします。

## ミニコラム データで見る岡山大学 男女共同参画の現状③

大半の大学教員にとって、「研究」は職務における最大の関心事でしょう。『岡山大学の男女共同参画に関するアンケート調査報告』（平成21年秋実施）で、岡山大学で研究・教育をする上での問題点について尋ねたところ、11項目中最も多かったのは「研究のための時間が十分に確保できない」(71.0%)でした。他にも、教育 (49.1%) や家族 (47.8%) のための時間が十分に確保できない、体力的にきつい時がある (57.6%)、あるいは研究や実験の拘束時間が長い (30.3%) との回答が多く、本学の教員が時間に追われて生活していることがうかがえます。

なお、男女別に見たところ、女性教員において「研究室の雰囲気は男性あるいは女性中心でなじめないことがある」、「困ったときに気軽に相談できる同性が身近にいない」と答える回答者の割合が高くなっていました。これは、大学院生の場合も同じで、女性研究者が少ない現在の研究環境を問題に感じている女性が少ないことがわかります。

**クイズ** 大学院生に岡山大学で研究をする上の問題点について尋ねてみました。最も多かった問題点は何でしょうか？

(答えは下に)

## お問い合わせ

国立大学法人 岡山大学  
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号  
TEL & FAX: 086-251-7011  
E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp  
http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/



## 男女共同参画室員からのメッセージ

岸本 昭  
(岡山大学大学院  
自然科学研究科 (工) 教授)



5月から室員となりました岸本です。工学部では入学に対する女子の割合が少なく、博士前期、後期となるにつれ更に加速して少なくなっています。就職において企業の理解を求めつつ、入学者・進学者中の女性割合を増やす道筋を探っていきたく考えています。

## お知らせ

女子学生の方へ

### ● 「(社)大学女性協会国内奨学生」募集中

**募集種別** 一般奨学生・社会福祉奨学生・安井医学奨学生  
**応募資格** 女子学生<詳細条件は募集種別により異なる>  
**募集要項**は(社)大学女性協会HP【<http://www.jauw.org/>】をご覧ください。  
**照会及び書類の提出先** 学務部学生支援課 (一般教育棟A棟2階)

男女共同参画室HPではこの他にも女性研究者向け研究助成等の公募情報を紹介しています。

### ● 平成23年度第1回研究スキルアップ講座 研究力3倍増強計画～個性を知れば学会賞が取れる～

**講師** 塚本 真也 教授 (岡山大学大学院自然科学研究科 (工))  
**日時** 平成23年9月5日 (月) **場所** 旧事務局庁舎 2F会議室  
**対象** 岡山大学の教職員対象

### ● 第2回研究支援員事業に関する意見交換会 10月実施予定

研究支援員事業利用者以外の方も歓迎いたします。詳しくは男女共同参画室までお問い合わせください。

### 2011年岡山大学オープンキャンパスに参加します 「理系の魅力 女子高生の皆さんへ」

**日時** 平成23年8月5日(金)・6日(土)  
11時00分～16時00分  
**場所** 岡山大学総合案内センター(大会館) 喫茶コーナー

理系(理学・工学・農学・環境理工学・薬学・保健学)の現役大学生や大学院に進学した院生の皆さんが理系の面白さを伝えます。学生生活や大学での研究について、少しでも先輩の女子大学生・大学院生になんでも気軽に聞いてみよう!

## 編集後記

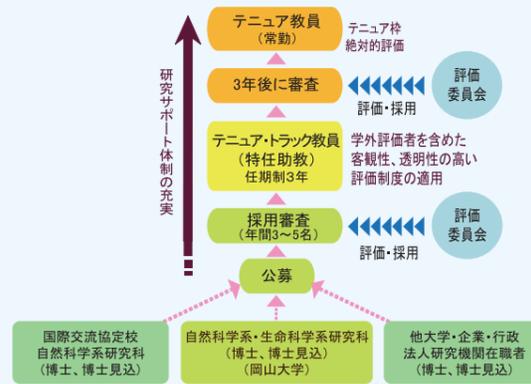
大学構内の緑も深くなり、すでに夏真っ盛りです。6月に40℃近い猛暑を記録するなど、今年の暑さの到来は想定外でしょうか。この暑さの中で学生、教職員はそれぞれの持ち場で、最適なワーク・ライフ・バランスに配慮した生活を目指して頑張っていただきたいと思います。男女共同参画室では、そのような人々の支援も積極的に行っています。本紙面で紹介しているWTT教員に対する研究面、精神面での支援、管理職の方々の意識啓発などです。岡山大学構内にはたくさんの大きな木が植わって涼を提供してくれています。木陰を通る時にすっと涼しさを感じた人も多いと思います。ワーク・ライフ・バランスを保つためにも何時もホットではないかなと思います。時には自然の風に涼を求めるエコな時間を過ごしてみませんか。東西道路沿いの座主川(さすがわ)に沿う遊歩道はおすすめのクールスポットです。

クイズの答え : 「体力的にきつい時がある」(46.2%)

## WTT 教員制度とは

WTT教員制度とは、女性研究者を対象に3年間助教 (WTT教員) として本学に受け入れ、専門分野の近い研究科において独立した教員としての経験を積みます。評価委員会等において、テニュア教員の採用基準に達していると評価されればテニュア教員<sup>※</sup>として採用される人事システムです。本学独自の教員養成システムで、平成 22 年 4 月からスタートしました。

※任期を付さない職又は国立大学法人岡山大学教員の任期に関する規則に定める再任可能な任期付きの職 (再任回数に制限がある職を除く)。



## 第 I 期 WTT 教員紹介 (平成 22 年 4 月 1 日付け採用) (五十音順)

### 江口 律子 助教

【所属】  
大学院自然科学研究科 (理)  
(理学部附属界面科学研究施設)



前列右が江口助教

#### 【研究内容】

金属 - 絶縁体相転移や超伝導など興味深い物性を示す強相酸化化合物や有機物質の電子状態について、放射光などを利用した様々な分光学的実験手法を用いて研究を行っています。また酸化化合物や有機薄膜などの試料作製やその物性についても調べています。その基礎物性をもとにして将来的に応用に活かせるような研究を目指しています。

#### 【メッセージ】

WTT 教員に採用されて 2 年目となりました。1 年目は新しい環境に飛び込み、これまでの研究を続けつつ新しい研究テーマにも取り組んだあつという間の 1 年でした。さらに慣れない教育活動もあり、立ちどまる暇もなく目の前のことをこなしてきたように思います。2 年目では少しゆとりを持って学生の皆さんと向き合い、教育や研究を頑張っていきたいと思っています。



### 三谷 奈見季 助教

【所属】  
資源植物科学研究所



#### 【研究内容】

植物のストレスを軽減する元素「ケイ素」はケイ酸輸送体タンパク質によって植物体内へと取り込まれます。私はこのケイ酸輸送体の発現制御機構の解明を目的に研究活動を行っています。

#### 【メッセージ】

早いもので WTT として 2 年目を迎えました。1 年目はあつという間に過ぎ去ってしまった印象です。今年度は WTT の任期の間で最も集中して研究や教育活動に取り組める年だと思っています。貴重な時間を有意義に使い、実りある 2 年目にしたいと思います。そして、多くの方に植物科学の楽しさを伝えられるようさらに努めて参ります。

### 御輿 真穂 助教

【所属】  
大学院自然科学研究科 (理)  
(理学部附属牛窓臨海実験所)



前列左から 2 番目が御輿助教

#### 【研究内容】

脊椎動物のホルモンと生理学について、主に魚を材料に研究しています。今後は両生類から哺乳類まで、さまざまな動物のゲノム情報を利用することで、新しいホルモンや機能の発見を目指したいと思っています。

#### 【メッセージ】

WTT 教員となって一年が過ぎ、ようやく生活のペースがつかめてきました。臨海実験所は本学とは離れた牛窓の海辺にあり、生物学科の実習に利用されますが、特に夏場は他大学の学生・高校生・共同利用の研究者など多くの人が訪れます。そうした人々から刺激を受けながら、今後も着実に自分の研究を積み重ねていきたいと考えています。



### 吉岡 美保 助教

【所属】  
大学院自然科学研究科 (理)



#### 【研究内容】

植物を研究対象にしています。植物にダメージを与える強い日差しや真冬の低温などを環境ストレスと呼びますが、植物は一年中何らかの環境ストレスにさらされていて、温暖化による気温の上昇も深刻な問題です。植物の光合成機構に注目し、環境ストレスが植物に与える影響と、植物が環境の変化に適応するために備えている仕組みについて明らかにしていきます。

#### 【メッセージ】

周囲の方々に日々元気と支えをいただきながら、二年目を迎えました。昨年は高校出前授業、海外出張、他大学との共同研究など、学外での活動が充実していました。今は研究室で育てている植物 (ホウレンソウ、オジギソウ、シロイヌナズナ) の成長を見るのが毎日の楽しみです。今年は担当する授業も増えたので、より一層がんばります！

## 第 II 期 WTT 教員紹介 (平成 23 年 4 月 1 日付け採用) (五十音順)

### 飯尾 友愛 助教

【所属】  
大学院保健学研究科



前列中央が飯尾助教

#### 【研究内容】

アロマセラピー (芳香療法) による作用・効果をマウス気管支喘息モデルで研究しています。様々な精油の作用を科学的に実証し、アロマセラピーによるヘルスプロモーションを提案していきます。

#### 【メッセージ】

子育てをしながら働くという初めての経験ですが、多くの方に支え続けていただきながら WTT 教員として歩み始めました。女性の多い学科でもありますので、自分の姿を見て刺激を受け1人でも多くの研究者を目指す学生が出てくれたらと思っています。その時に、今度はサポートできる立場になれるように教育・研究そして家庭・育児にも楽しみながらがんばっていききたいと思います。



### 宮崎 祐子 助教

【所属】  
大学院環境学研究科 (農)



左から 2 番目が宮崎助教

#### 【研究内容】

多くの植物は、開花・結実量が年によって変動する性質を持っています。しかし、その詳しいメカニズムについては多くのことが分かっていません。花が大量に咲くためには何が必要なのか？咲いた花が種子になるまでの間に何が起きているのか？その問いに答えるため、遺伝子の発現パターンや個体の栄養状態、気温などを解析し、植物の繁殖メカニズムに迫る研究に取り組んでいます。

#### 【メッセージ】

学生には、自主的に自由に学ぶことのできる大学という環境の中で、熱中できることを見つけて欲しいと思います。そして自分の研究や講義がその熱中して取り組める何かを発見するきっかけになればとても幸せです。活気に満ちた活動が多く生まれる場所になるよう、精進したいと思います。

## 第 III 期 WTT 教員公募情報

【職種】特別契約職員 助教 (特任)

【教育・研究分野】

自然科学研究分野  
(募集分野等の詳細は男女共同参画室ウェブサイトをご覧ください)

【採用人数】3 ~ 5 名程度 (全分野の総数)

【応募資格】博士の学位を有する女性研究者  
(2012 年 3 月 31 日までに学位取得見込みの者を含む)

【応募受付期間】2011 年 9 月 15 日 (木) 17 時まで 必着

詳細は下記 URL をご覧ください。  
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/wtt.bosyu.html>

### 前田 恵 助教

【所属】  
大学院自然科学研究科 (農)



#### 【研究内容】

植物や昆虫細胞は、ヒトには存在しない、特徴的な構造の糖タンパク質糖鎖「抗原性 N-グリカン」を発現しています。現在は、このような抗原性 N-グリカンについて、アレルギーや抗腫瘍免疫に関わる免疫調節作用を明らかにすることを目的に研究を行っています。

#### 【メッセージ】

学位取得後、川崎医科大学衛生学教室にて 5 年間、癌や自己免疫疾患を誘発する環境因子 (主にアスベストやシリカ) について免疫系への影響を研究しておりました。この度、WTT 教員として母校に戻りましたので「糖鎖免疫学」について研究を進めると共に、教育にも貢献していきたいと思っています。研究室では、皆でお花見に行き、男子学生が手作りのお弁当を作ってきてくれました。女性教員が珍しい時代はあつという間に過ぎていくのでは??

## 研究支援員 エッセイ 分身の術

プロフィール  
楊 霊麗さん  
現在育児中の三木直子先生の研究支援員として活躍中



右から三木先生、研究支援員の小笠さん、楊さん。

女性教員は、出産、育児など家庭や社会に対する女性特有の役割を担っており、教育・研究と家庭の両立が非常に難しい時期があります。こうした状況で継続的に研究を行う上で、研究支援員による実験やデータ解析などのサポートは非常に有用であるといえます。教員の研究計画を理解し、連絡を密に行い、円滑に研究が行われた場合には、まるで女性研究員は分身の術が使える忍者、支援員は、その分身のようです。

森林では、養分や水分など生育条件は、林分構成や微地形などによって異なります。自ら移動できず生育環境を自由に選択できないアカマツは、なぜ多様な条件下で生育が可能なのか？水分や養分の違いはアカマツの組織構造や生理機能をどのように変化させているのか？私は、三木先生のこの研究テーマに関連して、異なる養分条件下で生育させたアカマツの通水器官の構造および機能についての研究支援を行ってきました。実験がうまく進まず諦めたくもなりましたが、先生から上へ向かう力をいただきました。困難な状況下でも現状を分析して新たに実験を積み重ねていくことの大切さ、どのようにデータを蓄積していくべきか、実験の切り口をどうするかといったことを学びました。これらは私の研究者の夢を追いかける力になっています。

先生との研究ディスカッションは最も楽しいものです。私は目前の結果を集中的に考えますが、先生は広い視野で全体の関係性を導き出します。研究支援を通じ、教員と支援員それぞれの立場を超えて、相互に発展し合うことができるすばらしさを感じます。